

	俳句	年代	季節	分類	季語
1	ほのほのや鼯忽ち絶えて春	26	新年	時候	新年
2	我宿や鼯忽ち絶えて春	26	新年	時候	新年
3	紀元二千五百五十四年なり	27	新年	時候	新年
4	年明けて春まだ立たず梅の花	27	新年	時候	新年
5	掃溜にこれはこれはの春も来し	27	新年	時候	新年
6	春や来る表に物も案内も	27	新年	時候	新年
7	百卷の古書の山こえ春は来ぬ	27	新年	時候	新年
8	ほのほのと茜の中や今朝の不二	27	新年	時候	新年
9	隻手聲絶えて年立つあした哉	28	新年	時候	新年
10	紀元二千五百五十五年哉	28	新年	時候	新年
11	紀元二千五百五十五年なり	28	新年	時候	新年
12	新年や床は竹の画梅の花	28	新年	時候	新年
13	咲にけり筆のさきより年の花	29	新年	時候	新年
14	新年の上野寂寞と鴉鳴く	29	新年	時候	新年
15	寐んとすれば鷄鳴いて年新なり	29	新年	時候	新年
16	恭賀新禧一月一日日野昇	30	新年	時候	新年
17	新年の霜と消えたるはかなさよ	30	新年	時候	新年
18	新年の棺に逢ひぬ夜中頃	30	新年	時候	新年
19	新年の墨水語り其村响る	30	新年	時候	新年
20	新年や鶯鳴いてほとゝぎす	30	新年	時候	新年
21	蒲団から首出せば年の明けて居る	30	新年	時候	新年
22	年こゝにあらたなる梅の荅哉	31	新年	時候	新年
23	一月二日奇石瑞草を見る	32	新年	時候	新年
24	年徳と布袋とどつと笑ひけり	32	新年	時候	新年
25	蟹を得たり新年會の残り酒	33	新年	時候	新年
26	蟹を得つ新年會の残り酒	33	新年	時候	新年
27	新年稿成つて萬斛の血を灑きけり	33	新年	時候	新年
28	新年の白紙綴ちたる句帖哉	33	新年	時候	新年
29	子の年の鼠にちなむ落語哉	33	新年	時候	新年
30	酔蟹や新年會の残り酒	33	新年	時候	新年
31	經二曰ク春王の正月日々食たれり	26	新年	時候	正月
32	正月の物あはれなり傀儡師	26	新年	時候	正月
33	正月や賤の伏屋も文の數	26	新年	時候	正月
34	貧乏の正月はうしさりながら	26	新年	時候	正月
35	老もいさめ瘦せたりといへども午の年	26	新年	時候	正月
36	琴鼓ならべかけたる睦月哉	27	新年	時候	正月
37	正月を水仙の花のさかり哉	27	新年	時候	正月
38	一月となりけり雪もふりにけり	28	新年	時候	正月
39	うれしさの過ぎぬ正月四日なり	28	新年	時候	正月
40	正月の人あつまりし落語かな	28	新年	時候	正月
41	正月や里はきのふの古薄	28	新年	時候	正月
42	春王の正月書すと書かれたり	28	新年	時候	正月
43	年礼の過ぎぬ正月四日なり	28	新年	時候	正月
44	正月や橙投げる屋敷町	29	新年	時候	正月
45	一年は正月に一生は今に在り	30	新年	時候	正月
46	一年は正月に一生八今にあり	30	新年	時候	正月

47	正月や餅ならべたる佛の間	33	新年	時候	正月
48	正月の末にとゞきぬ支那みかん	35	新年	時候	正月
49	水こぼる風にさきけり江戸の春	23	新年	時候	初春
50	うそうそと蟲はひけり菴の春	24	新年	時候	初春
51	猫の顔もみがきあげたり玉の春	24	新年	時候	初春
52	あらたまの春としなれば人笑ふ	25	新年	時候	初春
53	いくたびの花の蒼ぞ庵の春	25	新年	時候	初春
54	烏帽子着る世ともならばや花の春	25	新年	時候	初春
55	おそろしき殿御めでたし花の春	25	新年	時候	初春
56	死ぬものと誰も思はず花の春	25	新年	時候	初春
57	死ぬると八思八さりけり花の春	25	新年	時候	初春
58	女房によびおこされて花の春	25	新年	時候	初春
59	袴着て火ともす庵や花の春	25	新年	時候	初春
60	花の春うかれて屠蘇の二日酔	25	新年	時候	初春
61	兵隊は國の花なりけふの春	25	新年	時候	初春
62	我等まで神の御末そけふの春	25	新年	時候	初春
63	明て春暮ても春のうれしさよ	26	新年	時候	初春
64	庵の春鏡餅より白みけり	26	新年	時候	初春
65	鶯や東よりくる庵の春	26	新年	時候	初春
66	うつくしき根岸の春やさゝの雪	26	新年	時候	初春
67	閏年や一日遅き花の春	26	新年	時候	初春
68	風吹て雨降てさて花の春	26	新年	時候	初春
69	風吹て山里春をしらぬ哉	26	新年	時候	初春
70	紀元二千五百五十三年の春	26	新年	時候	初春
71	君が代を踊りそめけり花の春	26	新年	時候	初春
72	鍬に土つかぬ一日や里の春	26	新年	時候	初春
73	くれ竹の根岸にすんで花の春	26	新年	時候	初春
74	元日の掛乞もあり江戸の春	26	新年	時候	初春
75	景に富む庵や山の春水の春	26	新年	時候	初春
76	化粧部屋に吾妹子光る宿の春	26	新年	時候	初春
77	此隅に門松立てり江戸の春	26	新年	時候	初春
78	民の春同胞三千九百萬	26	新年	時候	初春
79	つくばねは筆のさきなり庵の春	26	新年	時候	初春
80	舶來の牛も日本の花の春	26	新年	時候	初春
81	初春やいわけなき兒の兩鼓	26	新年	時候	初春
82	初春や七十五年いきのびん	26	新年	時候	初春
83	初春や雪の中なる善光寺	26	新年	時候	初春
84	母人は江戸はじめての春日哉	26	新年	時候	初春
85	春くばる都の文や十二萬	26	新年	時候	初春
86	春は曙雲紫のつく波山	26	新年	時候	初春
87	東からあれあれ春がくるわいな	26	新年	時候	初春
88	目を明て見たれば春となりけり	26	新年	時候	初春
89	餅花にとびつく猫や玉の春	26	新年	時候	初春
90	世の中をすてずことしも花の春	26	新年	時候	初春
91	梅八まだ枯木に似たり花の春	27	新年	時候	初春
92	梅はまだ枯木にもつとして花の春	27	新年	時候	初春
93	烟突の煙にぎはふ民の春	27	新年	時候	初春

94	大幅の帯そろひけり京の春	27	新年	時候	初春
95	傾城の古郷遠し京の春	27	新年	時候	初春
96	三寶に東海南山庵の春	27	新年	時候	初春
97	竹の影梅の影あり窓の春	27	新年	時候	初春
98	猫の子の眷族ふゑて玉の春	27	新年	時候	初春
99	端書あり活版もあり文の春	27	新年	時候	初春
100	春もはや運坐賑ふ老梅居	27	新年	時候	初春
101	父母います人たれたれそ花の春	27	新年	時候	初春
102	盆栽の紅梅さくや女御の春	27	新年	時候	初春
103	むつかしき言の葉草や花の春	27	新年	時候	初春
104	めでたさやよその言葉も旅の春	27	新年	時候	初春
105	あらをかし何に浮世の花の春	28	新年	時候	初春
106	紀元二千五百五十五年の春	28	新年	時候	初春
107	とにかくに坊主をかしゃ花の春	29	新年	時候	初春
108	竹に葉無し松に雌雄無し江戸の春	31	新年	時候	初春
109	初春や赤装束の牛童	33	新年	時候	初春
110	烏帽子着た人の心や神の春	25	新年	時候	神の春
111	海老にさへ伊勢の名はあり神の春	26	新年	時候	神の春
112	松の木の注連縄古し神の春	26	新年	時候	神の春
113	淋しさの尊とさまさる神の春	27	新年	時候	神の春
114	玉くしげ二見にあける神の春	27	新年	時候	神の春
115	古杉の花咲かぬ身を神の春	27	新年	時候	神の春
116	君が代や千嶋よりくる國の春	26	新年	時候	國の春
117	四方海渺々として國の春	26	新年	時候	國の春
118	十萬の常備軍あり國の春	26	新年	時候	國の春
119	僧赤く神主白し國の春	26	新年	時候	國の春
120	萬國の地圖を開くや國の春	26	新年	時候	國の春
121	餅花の小判動かず國の春	26	新年	時候	國の春
122	新しき地圖も出來たり國の春	28	新年	時候	國の春
123	猫の顔もみかきあけたり御代の春	24	新年	時候	君の春
124	のら者もあつてめでたし御代の春	24	新年	時候	君の春
125	君が春筈に掃ふ塵もなし	25	新年	時候	君の春
126	東京と江戸も變りて君か春	25	新年	時候	君の春
127	田舎出のけつとう赤く君か春	25	新年	時候	君の春
128	田舎出のけつとう赤しみよの春	25	新年	時候	君の春
129	狼は山へ歸るや御代の春	26	新年	時候	君の春
130	宮城や文武をかぬる君か春	26	新年	時候	君の春
131	めでたさやいつまでかくて君か春	26	新年	時候	君の春
132	君が春さゝれ石原玉かしは	27	新年	時候	君の春
133	君が春背丈にあまる鶴の首	27	新年	時候	君の春
134	命長く喜び多し御代の春	28	新年	時候	君の春
135	永代の橋も落ちずに君か春	28	新年	時候	君の春
136	君が春誰が殿酔ふて神樂歌	28	新年	時候	君の春
137	草も木も君か春とぞ歌ひける	28	新年	時候	君の春
138	中の川潺湲として御代の春	29	新年	時候	君の春
139	立臼の重さも問はず君か春	30	新年	時候	君の春
140	刀鍛冶は庖丁鍛冶や御代の春	31	新年	時候	君の春

141	四位五位は升で量るよ君が春	31	新年	時候	君の春
142	檻の内に麒麟も老いて君か春	不詳	新年	時候	君の春
143	甚六の寐言とだえて去年今年	24	新年	時候	去年今年
144	去年の夢さめてことしのうつゝ哉	26	新年	時候	去年今年
145	元日や見直すふじの去年の雪	22	新年	時候	元日
146	元日は何も思はで暮らしけり	23	新年	時候	元日
147	元日や一輪開く福壽草	23	新年	時候	元日
148	元日や門松に照る朝日影	23	新年	時候	元日
149	元日やきのふはきのふけふはけふ	24	新年	時候	元日
150	元日と知らぬ軒の高さかな	25	新年	時候	元日
151	元日のはれや片鎌大鳥毛	25	新年	時候	元日
152	元日や朝日に鶴の羽つくるひ	25	新年	時候	元日
153	元日や勅使の橋に松の影	25	新年	時候	元日
154	元日や日も出ぬさきの不二の山	25	新年	時候	元日
155	元日やふしへものほる人心	25	新年	時候	元日
156	元日やふじ見る國はとことこぞ	25	新年	時候	元日
157	元日やむしろ屏風に梅のかげ	25	新年	時候	元日
158	風吹てても元日の覺束な	26	新年	時候	元日
159	元日に海老の死骸ぞめでたけれ	26	新年	時候	元日
160	元日に海老の死骸のおもしろや	26	新年	時候	元日
161	元日は佛なき世へもどりけり	26	新年	時候	元日
162	元日や上野の森に去年の月	26	新年	時候	元日
163	元日や蘇鐵に動く風もなし	26	新年	時候	元日
164	元日やとても事に死で見ん	26	新年	時候	元日
165	白妙の不尽見て立てり日の始	26	新年	時候	元日
166	禰宜だちよ元日のいはれ物語れ	26	新年	時候	元日
167	うつくしや洛陽の元日雪ちらちら	27	新年	時候	元日
168	風凧でけさ元日となりにけり	27	新年	時候	元日
169	元日に追付かれけり破衾	27	新年	時候	元日
170	元日の雀鳴くなり手水鉢	27	新年	時候	元日
171	元日の住吉淋し松の音	27	新年	時候	元日
172	元日の住吉寒し松の風	27	新年	時候	元日
173	元日の夕日になりて哀れ也	27	新年	時候	元日
174	元日の夕日になれば哀れ也	27	新年	時候	元日
175	元日の芳野に花もなかりけり	27	新年	時候	元日
176	元日もたゞ尊とさの涙かな	27	新年	時候	元日
177	元日や曙染の振小袖	27	新年	時候	元日
178	元日や金の話のかしましき	27	新年	時候	元日
179	元日や何やら語る鶴四五羽	27	新年	時候	元日
180	元日や二十六年同じこと	27	新年	時候	元日
181	元日や都の宿の置巨燵	27	新年	時候	元日
182	元日をお濠に眠るかもめ哉	27	新年	時候	元日
183	元日を御濠の鷗とも知らず	27	新年	時候	元日
184	灯を消して元日と申庵哉	27	新年	時候	元日
185	雪ふるや洛陽の元日うつくしき	27	新年	時候	元日
186	おもしろや元日暮れて月六日	28	新年	時候	元日
187	元日の行燈をかじや枕もと	28	新年	時候	元日

188	元日の太鼓聞かばや法華寺	28	新年	時候	元日
189	元日も二日も暮れてしまひけり	28	新年	時候	元日
190	元日や枯菊残る庭のさき	28	新年	時候	元日
191	元日の馬車見に行くや丸の内	29	新年	時候	元日
192	元日の人通りとはなりにけり	29	新年	時候	元日
193	元日は是も非もなく衆生也	29	新年	時候	元日
194	元日は除夜のあしたの名也けり	30	新年	時候	元日
195	元日も暮れて上野の嵐哉	30	新年	時候	元日
196	元日やしらかねの餅こかねの蜜柑	30	新年	時候	元日
197	町はづれ元日らしからぬ家よ	30	新年	時候	元日
198	うれしかる子に元日の曇りけり	31	新年	時候	元日
199	元日や鶴も飛ばざる不二の山	31	新年	時候	元日
200	元日を天地和合のはじめ哉	31	新年	時候	元日
201	就中梅元日の姿なる	31	新年	時候	元日
202	元日の病者見舞ふや駿河臺	32	新年	時候	元日
203	大三十日愚なり元日猶愚也	34	新年	時候	元日
204	元朝や虚空暗く但不二許り	24	新年	時候	元旦
205	うつかりと元日の朝の長寝哉	25	新年	時候	元旦
206	元朝や米くれさうな家はどこ	25	新年	時候	元旦
207	元朝や皆見覺の紋處	25	新年	時候	元旦
208	風吹てつめたき年のあした哉	26	新年	時候	元旦
209	風やんでけさ元日となりにけり	27	新年	時候	元旦
210	元旦に追つかれけり破衾	27	新年	時候	元旦
211	元朝やわれは神國の男なり	27	新年	時候	元旦
212	元朝や車ときめく二重橋	28	新年	時候	元旦
213	元旦の馬車見る人や丸の内	29	新年	時候	元旦
214	元朝の上野静かに灯残り	29	新年	時候	元旦
215	今年はと思ふことなきにしもあらず	29	新年	時候	元旦
216	まだ夜なり西のはてには今朝の不二	29	新年	時候	元旦
217	元日や朝からものゝ不平なる	30	新年	時候	元旦
218	鶯も谷の戸出るやけさの春	23	新年	時候	今朝の春
219	けさの春御城も庵も一かすみ	25	新年	時候	今朝の春
220	月落て星まばらなりけさの春	25	新年	時候	今朝の春
221	我庵は御城を二里やけさの春	25	新年	時候	今朝の春
222	我等まで神の御末ぞけさの春	25	新年	時候	今朝の春
223	一休は死んでめでたしけさの春	26	新年	時候	今朝の春
224	家持て門松立てゝけさの春	26	新年	時候	今朝の春
225	風吹て門松うたふけさの春	26	新年	時候	今朝の春
226	かばかりのものとしらじをけさの春	26	新年	時候	今朝の春
227	今朝の春有明月を見つけたり	26	新年	時候	今朝の春
228	けさの春琵琶湖緑に不二白し	26	新年	時候	今朝の春
229	城門に槍の林やけさの春	26	新年	時候	今朝の春
230	唾壺に籠はかくれてけさの春	26	新年	時候	今朝の春
231	天守閣屹然としてけさの春	26	新年	時候	今朝の春
232	どこ見ても霞だらけにけさの春	26	新年	時候	今朝の春
233	世の中にすめばこそあれけさの春	26	新年	時候	今朝の春
234	鶯の隣にすんで今朝の春	27	新年	時候	今朝の春

235	君か代や四千萬人けさの春	27	新年	時候	今朝の春
236	白河の關むらさきにけさの春	27	新年	時候	今朝の春
237	白し青し相生の筑波けさの春	27	新年	時候	今朝の春
238	禪僧の寂然として今朝の春	27	新年	時候	今朝の春
239	なき親の繪姿笑ふ今朝の春	27	新年	時候	今朝の春
240	のどかさは新聞もなしけさの春	27	新年	時候	今朝の春
241	吾妹子のうしろ姿やけさの春	27	新年	時候	今朝の春
242	裾を引く妻の立居や三ヶ日	31	新年	時候	三が日
243	門番に餅を賜ふや三ヶ日	31	新年	時候	三が日
244	口紅や四十の顔も松の内	26	新年	時候	松の内
245	我門や松はたてねど松の内	26	新年	時候	松の内
246	裏門や遣羽子はやる松の内	27	新年	時候	松の内
247	袴着た町人見ゆる松の内	28	新年	時候	松の内
248	錢湯に善き衣著たり松の内	30	新年	時候	松の内
249	松の内齋うつ日も過ぎにけり	30	新年	時候	松の内
250	吉原の禿遊ふや松の内	30	新年	時候	松の内
251	吉原に禿遊ふや松の内	30	新年	時候	松の内
252	宮人や御喪に籠る松の内	31	新年	時候	松の内
253	門番に餅をたまふや松の内	31	新年	時候	松の内
254	借著して湯に行く旅の松の内	32	新年	時候	松の内
255	廻向院の相撲はじまる松の内	32	新年	時候	松の内
256	錢湯を出づる美人や松の内	33	新年	時候	松の内
257	錢湯を早くしまふや松の内	33	新年	時候	松の内
258	錢金を湯水に使ふ松の内	34	新年	時候	松の内
259	よひよひの鼓の音や松の内	35	新年	時候	松の内
260	ふんどしややうやう黒む初明り	25	新年	天文	初明
261	初日の出隣のむすめお白粉末だつけず	25	新年	天文	初日
262	毘沙門や松にはさんで初日出	25	新年	天文	初日
263	不盡赤し筑波を見れば初日の出	25	新年	天文	初日
264	蓬萊の松にさしけり初日の出	25	新年	天文	初日
265	墨梅の軸にさしこむや初日の出	25	新年	天文	初日
266	ゆらゆらと柳動くや初日の出	25	新年	天文	初日
267	今年も東より出る初日哉	26	新年	天文	初日
268	筑波根は二見に似たり初日の出	26	新年	天文	初日
269	初日さす硯の海に波もなし	26	新年	天文	初日
270	星は消え月はしらみて初日の出	26	新年	天文	初日
271	我庵はお城の上に初日哉	26	新年	天文	初日
272	鴉一羽初日の中を通りけり	27	新年	天文	初日
273	初日浮くや金波銀波の太平洋	27	新年	天文	初日
274	海のはてにあれあれ初日浮き給ふ	28	新年	天文	初日
275	大船のへさきに浮ぶ初日哉	28	新年	天文	初日
276	空近くあまりまばゆき初日哉	28	新年	天文	初日
277	初日のつと萬歳の聲どよみけり	28	新年	天文	初日
278	初日漏るおはらひ箱のほこり哉	28	新年	天文	初日
279	帆檣に人かき上る初日かな	28	新年	天文	初日
280	山里や初日を拜む十時頃	28	新年	天文	初日
281	雪きらきら初日のぼりぬ馬の耳	28	新年	天文	初日

282	鴉飛ぶや初日見えそむる山の上	29	新年	天文	初日
283	初日呑むと夢みて發句榮ゆべく	29	新年	天文	初日
284	初日見ばや海に向いて松くねる處	29	新年	天文	初日
285	初日拜むべく思はずわれ無精なり	29	新年	天文	初日
286	新聞を門で受け取る初日哉	31	新年	天文	初日
287	伊勢人のはがきに刷りし初日哉	33	新年	天文	初日
288	蛤の口より伊勢の初日哉	34	新年	天文	初日
289	墨梅の軸にさしけり初日影	25	新年	天文	初日影
290	はらはらと柳動くや初日影	26	新年	天文	初日影
291	ゆらゆらと柳うごくや初日影	26	新年	天文	初日影
292	初空や鳥は黒く富士白し	24	新年	天文	初空
293	初空や裾野も富士と成りにけり	25	新年	天文	初空
294	初空や初日初鷄初鴉	26	新年	天文	初空
295	初空や日の本明るる櫻色	26	新年	天文	初空
296	目にさはる塵一つなし初みそら	26	新年	天文	初空
297	初空へつゝとのべけり鶴の首	27	新年	天文	初空
298	初空や江戸は火の子の花の春	27	新年	天文	初空
299	初空や下より明るる相模灘	27	新年	天文	初空
300	初み空去年の眼を開きけり	27	新年	天文	初空
301	初空に去年の星の残りかな	28	新年	天文	初空
302	宮城や五色にそるふ初霞	25	新年	天文	初霞
303	初霞蒲團の裾にかゝるなり	26	新年	天文	初霞
304	古城を前にひかへて初霞	26	新年	天文	初霞
305	なすりつける繪筆のあとや初霞	27	新年	天文	初霞
306	星消えてあとは五色の初霞	27	新年	天文	初霞
307	水引のやうな雲あり初霞	28	新年	天文	初霞
308	烏帽子著た人ばかり也初霞	32	新年	天文	初霞
309	初東風に吹きちる顔の櫻哉	26	新年	天文	初東風
310	初東風の網にたまるや浦の春	26	新年	天文	初東風
311	初東風をうしろにうけて凧	26	新年	天文	初東風
312	馬の耳立てゝ東風吹くあした哉	27	新年	天文	初東風
313	初東風や空は朝より晴れちきり	27	新年	天文	初東風
314	初東風や日の丸の皺吹きおぼし	27	新年	天文	初東風
315	樋の口や東風吹渡る獺の顔	27	新年	天文	初東風
316	女つれて東風に吹かれに東山	27	新年	天文	初東風
317	初東風の烏帽子わつかに動く哉	28	新年	天文	初東風
318	初東風の吹くになびかぬ髯はあらし	28	新年	天文	初東風
319	御降の氷の上にたまりけり	25	新年	天文	御降
320	御降りの流れいでけり御所の溝	26	新年	天文	御降
321	御降りの雪にならぬも面白き	26	新年	天文	御降
322	海人か家の若水猶も汐はゆし	25	新年	人事	若水
323	若水や瓶の底なる去年の水	25	新年	人事	若水
324	風吹て若水氷る星の影	26	新年	人事	若水
325	仁齋の袂でくむ若井哉	26	新年	人事	若水
326	若水や天廣うして星の數	26	新年	人事	若水
327	若水に浮くや錢龜二つ三つ	27	新年	人事	若水
328	若水や檜垣の嫗の其むかし	27	新年	人事	若水

329	若水やふりわけ髪の共白髪	27	新年	人事	若水
330	若水や星汲みこぼし汲みこぼし	27	新年	人事	若水
331	船の人若水汲んで歸りけり	28	新年	人事	若水
332	まゝにならば宇治の若水不二の齒朶	28	新年	人事	若水
333	若水になつて落たる筧かな	28	新年	人事	若水
334	若水になつてこぼるゝ筧かな	28	新年	人事	若水
335	若水になつて流るゝ筧かな	28	新年	人事	若水
336	若水になりてこぼるゝ筧かな	28	新年	人事	若水
337	若水の須磨に御題の心あり	30	新年	人事	若水
338	初釣瓶曉の星の影ちらちら	26	新年	人事	初釣瓶
339	四方拜其時朝日のほりつゝ	27	新年	人事	四方拜
340	四方拜のお庭の霜や初鴉	31	新年	人事	四方拜
341	活版の名刺ほりこむ御慶哉	25	新年	人事	御慶
342	朝比奈も同じ事いふ御慶哉	26	新年	人事	御慶
343	隣から御慶の聲の霞けり	26	新年	人事	御慶
344	年々や御慶の言葉かはりけり	27	新年	人事	御慶
345	鶯の宿に投げこむ名札かな	28	新年	人事	御慶
346	梅さげて新年の御慶申けり	28	新年	人事	御慶
347	唐人の日本語つかふ御慶かな	28	新年	人事	御慶
348	御慶申す加賀のなまりや加賀屋敷	29	新年	人事	御慶
349	乳母が子の袴著て来る御慶哉	32	新年	人事	御慶
350	土佐人の紙布を著て来る御慶哉	32	新年	人事	御慶
351	年禮や鳴翁住める眞砂町	32	新年	人事	年礼
352	門禮や草の庵にも隣あり	26	新年	人事	礼者
353	禮者わたる錦帯橋の夜明哉	27	新年	人事	礼者
354	輪かざりに標札探る禮者かな	27	新年	人事	礼者
355	梅いけて禮者ことわる病かな	33	新年	人事	礼者
356	梅さげて来る禮者や七日過	33	新年	人事	礼者
357	友につれて知らぬ禮者の來りけり	33	新年	人事	礼者
358	病牀を圍む禮者や五六人	33	新年	人事	礼者
359	病床をめぐる五人の禮者かな	33	新年	人事	礼者
360	年玉に上の字を書く試筆哉	25	新年	人事	年玉
361	年玉や長崎鰯蝦夷昆布	26	新年	人事	年玉
362	年玉や長崎の鰯蝦夷昆布	26	新年	人事	年玉
363	年玉や何ともしれぬ紙包み	26	新年	人事	年玉
364	年玉の鴨提げて書生戸を叩く	30	新年	人事	年玉
365	年玉や同穴の契り番ひ鴨	31	新年	人事	年玉
366	年玉を竝べて置くや枕もと	34	新年	人事	年玉
367	君が住む方を吾家の恵方哉	25	新年	人事	恵方
368	盗人の曆見て出る恵方かな	25	新年	人事	恵方
369	鶯の恵方を向て鳴にけり	26	新年	人事	恵方
370	目をやれば恵方にたてりふしの山	26	新年	人事	恵方
371	恵方向て行くや道々梅の花	26	新年	人事	恵方
372	蚤か家の恵方は廣し大日の出	27	新年	人事	恵方
373	寐具合や恵方に尻を向けて居る	27	新年	人事	恵方
374	君か代や二十六度の初曆	26	新年	人事	初曆
375	初曆日曜の日をしらべける	27	新年	人事	初曆

376	初曆花時鳥月時雨	27	新年	人事	初曆
377	人の手にはや古りそめぬ初曆	27	新年	人事	初曆
378	今年は青き標紙や初曆	32	新年	人事	初曆
379	神宮の判すわりけり初曆	32	新年	人事	初曆
380	新宅に掛くる釘なし初曆	32	新年	人事	初曆
381	初曆一枚あけてなかめけり	32	新年	人事	初曆
382	初曆今年も人にもらひけり	32	新年	人事	初曆
383	初曆五月の中に死ぬ日あり	32	新年	人事	初曆
384	早ぐりの年數表や初曆	32	新年	人事	初曆
385	初曆今年は遅き初卯哉	33	新年	人事	初曆
386	初曆鼠の尿によごれけり	33	新年	人事	初曆
387	灰の中に落てよこれぬ初曆	33	新年	人事	初曆
388	初ゆめや女郎と論語の巻の一	25	新年	人事	初夢
389	初夢や獏にくはした後家の顔	25	新年	人事	初夢
390	うれしさにはつ夢いふてしまひけり	26	新年	人事	初夢
391	初夢や松の柱に芽がふいて	26	新年	人事	初夢
392	はつ夢や吉野龍田の花盛	27	新年	人事	初夢
393	女來よ初夢語りなくさまん	27	新年	人事	初夢
394	初夢の思ひしことを見ざりける	28	新年	人事	初夢
395	初夢や申の年には山の幸	29	新年	人事	初夢
396	初夢の何も見ずして明けにけり	30	新年	人事	初夢
397	雑煮くふてよき初夢を忘れけり	31	新年	人事	初夢
398	初夢に尾のある者を見たりけり	33	新年	人事	初夢
399	鼻息に飛んでは輕し寶舟	25	新年	人事	宝船
400	世渡りの波をのかれて寶舟	25	新年	人事	宝船
401	寶舟須磨の波音聞えけり	27	新年	人事	宝船
402	弘法は何と書きしぞ筆始	25	新年	人事	書初
403	年玉や上の一字を筆はじめ	27	新年	人事	書初
404	書初や髪の小旗の日のしるし	28	新年	人事	書初
405	立札や法三章の筆始	28	新年	人事	書初
406	書初の今年も拙かりけるよ	30	新年	人事	書初
407	書初や尊円親王の流を汲む	30	新年	人事	書初
408	書初や羽子に負けたる君が顔	31	新年	人事	書初
409	聖徳を頌する文や筆始	31	新年	人事	書初
410	書初に鶴の歌書く檀紙哉	32	新年	人事	書初
411	齒固や鼠もためす鏡餅	26	新年	人事	齒固め
412	齒固やいで海のもの山のもの	27	新年	人事	齒固め
413	小松曳袴の泥も畫にかゝん	25	新年	人事	子の日
414	春日野に野守の妻の子日哉	26	新年	人事	子の日
415	春日野や子の日も過ぎて鶴の聲	26	新年	人事	子の日
416	君が手やわが手も添へて小松引	26	新年	人事	子の日
417	小松曳わが思ふ人は霞みけり	26	新年	人事	子の日
418	小松曳わきもどこに霞むらん	26	新年	人事	子の日
419	子の日せん小松の中の小松哉	26	新年	人事	子の日
420	ほろほろと袴きれたり小松曳	26	新年	人事	子の日
421	我庵は門松引て子の日せん	26	新年	人事	子の日
422	我戀はひく手なぎさの小松哉	26	新年	人事	子の日

423	幾千代を引きすてられて姫小松	27	新年	人事	子の日
424	春日野の子の日に出たり六歌仙	27	新年	人事	子の日
425	小松かくれ鶴の子見ゆる子日哉	27	新年	人事	子の日
426	鶴の子のあとを子の日の小松哉	27	新年	人事	子の日
427	引かんとや小松かくれの緋の袴	27	新年	人事	子の日
428	春日野に女引くべき小松哉	28	新年	人事	子の日
429	烏帽子著た人ばかり也小松曳	32	新年	人事	子の日
430	君か代の齋をはやす拍子哉	27	新年	人事	齋打
431	其雪をそのままはやす齋かな	27	新年	人事	齋打
432	齋うつ都はづれの伏家かな	28	新年	人事	齋打
433	女王祿やねびまさりたる御笑顔	31	新年	人事	女王祿
434	乗そめの足も亂れず雪のあと	27	新年	人事	馬騎初
435	一の矢は不二へそれけりゆみはしめ	25	新年	人事	弓始
436	一の矢は富士を目かけて年始	25	新年	人事	弓始
437	弓始其夜は鬼を退治けり	25	新年	人事	弓始
438	打ちまはず幕に眼のあり弓始	26	新年	人事	弓始
439	若殿の片肌ぬきや弓はじめ	26	新年	人事	弓始
440	君が代や鳥驚かぬ弓はじめ	27	新年	人事	弓始
441	ふじのねの矢先に霞む弓始	27	新年	人事	弓始
442	やせ腕や三千石の弓始	27	新年	人事	弓始
443	初荷ふんで天へものぼる八聲哉	25	新年	人事	初荷
444	牛引の初荷の山よ人の波	27	新年	人事	初荷
445	踊りけり初荷の山も崩れよと	27	新年	人事	初荷
446	提灯や初荷の山の山かつら	28	新年	人事	初荷
447	飾りかけし馬車集ひけり日本橋	32	新年	人事	初荷
448	窓あけて見れば淋しき初荷哉	33	新年	人事	初荷
449	瘦馬をかざり立てたる初荷哉	33	新年	人事	初荷
450	ウレシキカナト蕎麥フルマヒ又店卸	35	新年	人事	棚下し
451	笑ひあふ十日夷の烏帽子哉	31	新年	人事	十日戎
452	鬼瓦笑ふ朝日や藏ひらき	26	新年	人事	蔵開
453	ふるくさき去年の匂ひや藏開	26	新年	人事	蔵開
454	さつとあけて東風吹き入るゝ藏の中	28	新年	人事	蔵開
455	象も來つ雀も下りつ鍬始	26	新年	人事	鍬初
456	天は晴れ地は濕ふや鍬始	26	新年	人事	鍬初
457	水仙をうつすや庵の鍬始	27	新年	人事	鍬初
458	人の世の工夫ではなし削り掛	25	新年	人事	削掛
459	傲る世に伽羅は用ゐず削り掛	26	新年	人事	削掛
460	大内も伽羅は用ゐず削掛	26	新年	人事	削掛
461	甚五郎は何と削るぞ削り掛	26	新年	人事	削掛
462	乗そめや恵方参りの渡し舟	27	新年	人事	舟乗始
463	紙衣あり庵いかめしき着衣始	27	新年	人事	着衣初
464	名所や絹商人の着衣始	27	新年	人事	着衣初
465	うら返す其古衣の着衣始	28	新年	人事	着衣初
466	風引きし初卯参りの美人哉	33	新年	人事	初卯詣
467	一日はとんとけぶるや鳥邊山	26	新年	人事	左義長
468	左義長の一日めでたし鳥部山	26	新年	人事	左義長
469	飾焼く坐敷の庭の日向哉	32	新年	人事	左義長

470	枯菊にどんどの灰のかゝりけり	32	新年	人事	左義長
471	綱引ややゝしばらくは聲もなし	26	新年	人事	綱引
472	綱引や通りかゝりし小山伏	27	新年	人事	綱引
473	綱引や山かけ下る悪法師	27	新年	人事	綱引
474	藪入の足跡多し畔の雪	26	新年	人事	藪入
475	藪入の二人落ちあふ渡し哉	26	新年	人事	藪入
476	藪入は都の梅をみやげ哉	26	新年	人事	藪入
477	藪入や牛の匂ひも珍しき	26	新年	人事	藪入
478	藪入や縁きる咄よもすから	26	新年	人事	藪入
479	藪入や思ひは同じ姉妹	26	新年	人事	藪入
480	藪入や鯛一匹を隣あひ	26	新年	人事	藪入
481	藪入や甥姪どもになぶらるゝ	26	新年	人事	藪入
482	藪入の八瀬や大原清閑寺	27	新年	人事	藪入
483	やぶ入のみやけをさげて来りけり	32	新年	人事	藪入
484	やぶ入の親もなき子や芝居好き	33	新年	人事	藪入
485	やぶ入の佛壇拜む名残哉	33	新年	人事	藪入
486	若様をかりてめのとの里居哉	26	新年	人事	里居
487	鶯にとばしるかかる水祝ひ	26	新年	人事	水祝
488	年玉に何まゐらせん水祝ひ	26	新年	人事	水祝
489	我妹子にわれから屠蘇の水祝	26	新年	人事	水祝
490	大君の來ませ御肴水祝ひ	27	新年	人事	水祝
491	嫁つれて鼠も出たり水祝ひ	27	新年	人事	水祝
492	若殿の若き程こそ水祝ひ	27	新年	人事	水祝
493	おとつれる昔念者や水祝	32	新年	人事	水祝
494	風引の男に水を祝ひけり	32	新年	人事	水祝
495	門口や這入る處を水祝	32	新年	人事	水祝
496	心安き友やしたゝか水祝	32	新年	人事	水祝
497	尋常に水祝はれん酒の酔	32	新年	人事	水祝
498	存分に水祝はゝや思ひ妻	32	新年	人事	水祝
499	樽提けて宵寐起すや水祝	32	新年	人事	水祝
500	つめたくて嬉しきものや水祝	32	新年	人事	水祝
501	年若き肌うつくし水祝	32	新年	人事	水祝
502	水祝戀の敵と名のりけり	32	新年	人事	水祝
503	高砂の松の二タ子が門の松	22	新年	人事	門松
504	蓮葉の嶋の緑や門の松	22	新年	人事	門松
505	兄の子の背丈のひけり門の松	25	新年	人事	門松
506	兄の子の背丈のびたり門の松	25	新年	人事	門松
507	兄の子の背丈八のひて門の松	25	新年	人事	門松
508	門松のない家もあり榮螺町	25	新年	人事	門松
509	風吹て門松生けるものゝ如し	26	新年	人事	門松
510	風吹て門松琴をしらべけり	26	新年	人事	門松
511	門松や門なき家の門はしら	26	新年	人事	門松
512	萬歳の入口せばし門の松	26	新年	人事	門松
513	萬歳の袖かざしけり松かさり	26	新年	人事	門松
514	我庵は明家にあらず門の松	26	新年	人事	門松
515	明家や門松の齒抜面白き	27	新年	人事	門松
516	門松や上手下手なき筆使ひ	27	新年	人事	門松

517	門松や八百八屋町のその外も	27	新年	人事	門松
518	呉竹の根岸の里や松飾り	27	新年	人事	門松
519	ふじのねや麓は三保の松飾り	27	新年	人事	門松
520	いさゝかの松結びつけぬ門柱	28	新年	人事	門松
521	大家や出口出口の松かざり	28	新年	人事	門松
522	門松と門松と接す裏家哉	30	新年	人事	門松
523	御所の門門松もなき尊さよ	31	新年	人事	門松
524	門松に右し左す矢來町	32	新年	人事	門松
525	門松やわがほとゝきす發行所	32	新年	人事	門松
526	福藁に雀の下りる日向かな	27	新年	人事	福藁
527	奥山や人こぬ家の門かざり	26	新年	人事	飾
528	橙や都の家数四十萬	26	新年	人事	飾
529	ながながと又ながながと注連飾り	26	新年	人事	飾
530	輪飾りに驚ゆれる根岸哉	26	新年	人事	飾
531	輪飾りを茅の輪にくゞる驚か	26	新年	人事	飾
532	木曾を出てこの三寶のかざり炭	27	新年	人事	飾
533	木曾を出て都の家のかざり炭	27	新年	人事	飾
534	禰宜が門注連繩の上なる注繩飾	27	新年	人事	飾
535	めでたさや飾りの蜜柑盗まれて	27	新年	人事	飾
536	裏門や小さ輪飾齒朶勝に	28	新年	人事	飾
537	小蔀や暖簾の上の注連飾	28	新年	人事	飾
538	古辻や地藏の堂のしめ飾り	28	新年	人事	飾
539	おかざりの橙落す童かな	29	新年	人事	飾
540	輪飾の橙落す童哉	29	新年	人事	飾
541	飾小く門と知らで人の行き過ぎぬ	30	新年	人事	飾
542	赤門の橙小き飾り哉	31	新年	人事	飾
543	裏門の輪飾人に取られけり	31	新年	人事	飾
544	三寶に蓬萊の山静なり	31	新年	人事	飾
545	輪かざりにメ切りてある小門哉	31	新年	人事	飾
546	輪かざりや町人這入る勝手口	31	新年	人事	飾
547	兩側に長き三井の飾り哉	32	新年	人事	飾
548	簑笠を蓬萊にして草の庵	25	新年	人事	蓬萊
549	簑笠を蓬萊にして旅のはる	25	新年	人事	蓬萊
550	動きなき蓬萊山の姿哉	26	新年	人事	蓬萊
551	蓬萊に我身ちゞめてはいらうよ	26	新年	人事	蓬萊
552	蓬萊の上にしたるゝ柳哉	26	新年	人事	蓬萊
553	蓬萊や鶯のぞく籠の外	26	新年	人事	蓬萊
554	蓬萊や窓は睦月の薄月夜	26	新年	人事	蓬萊
555	蓬萊や山のものより海の物	26	新年	人事	蓬萊
556	大内は蓬萊山の姿かな	27	新年	人事	蓬萊
557	君か家は蓬萊橋をかざし哉	27	新年	人事	蓬萊
558	蓬萊に橙の朝日昇りけり	27	新年	人事	蓬萊
559	蓬萊に似たり小窓の松の山	27	新年	人事	蓬萊
560	蓬萊の山も動かぬ代なりけり	27	新年	人事	蓬萊
561	蓬萊や南山の蜜柑東海の鰯	27	新年	人事	蓬萊
562	包みたるものには根松藪柑子	28	新年	人事	蓬萊
563	鼠どもの蓬萊をくふてしまひけり	28	新年	人事	蓬萊

564	蓬萊に喰ひたきものもなかりけり	28	新年	人事	蓬萊
565	蓬萊に貧乏見ゆるあはれなり	28	新年	人事	蓬萊
566	鶏ないて蓬萊の山明けんとす	29	新年	人事	蓬萊
567	蓬萊にすこしなみふる夜中哉	29	新年	人事	蓬萊
568	蓬萊に俳句の神を祭らんか	29	新年	人事	蓬萊
569	蓬萊の陰や鼠のさゝめ言	29	新年	人事	蓬萊
570	蓬萊の小さく見ゆる書院かな	29	新年	人事	蓬萊
571	蓬萊の麓に寐たる夫婦かな	29	新年	人事	蓬萊
572	大なる蓬萊見ゆる町家哉	30	新年	人事	蓬萊
573	蓬萊にテーブル狭き硯哉	30	新年	人事	蓬萊
574	蓬萊に根松包むや昔ぶり	30	新年	人事	蓬萊
575	蓬萊のうしろの壁を漏る日哉	30	新年	人事	蓬萊
576	蓬萊や上野の山と相對す	30	新年	人事	蓬萊
577	蓬萊の齒朶蹈みはず鼠哉	31	新年	人事	蓬萊
578	かたよせて蓬萊小し梅がもと	32	新年	人事	蓬萊
579	蓬萊に一斗の酒を盡しけり	32	新年	人事	蓬萊
580	蓬萊にくふべきものを探りけり	32	新年	人事	蓬萊
581	蓬萊に我生きて居る今年哉	32	新年	人事	蓬萊
582	蓬萊に我は死なざる今年哉	32	新年	人事	蓬萊
583	蓬萊のかち栗かぢる七日哉	32	新年	人事	蓬萊
584	蓬萊の小さき山を崩しけり	32	新年	人事	蓬萊
585	蓬萊の蜜柑ころげし座敷哉	32	新年	人事	蓬萊
586	蓬萊や襖あけたる病の間	32	新年	人事	蓬萊
587	蓬萊や名土あつまる上根岸	32	新年	人事	蓬萊
588	蓬萊に鼠のうからやから哉	33	新年	人事	蓬萊
589	蓬萊の鼠に祟る疫かな	33	新年	人事	蓬萊
590	蓬萊や襖を開く病の間	33	新年	人事	蓬萊
591	蓬萊やふゞきを祝ふ吹雪の句	33	新年	人事	蓬萊
592	蓬萊ノ松ノ茂りヤ鶴百羽	35	新年	人事	蓬萊
593	蓬萊も家越車や松の内	35	新年	人事	蓬萊
594	黴生て曇るといふらん鏡餅	26	新年	人事	鏡餅
595	橙は赤し鏡の餅白し	26	新年	人事	鏡餅
596	丸きもの初日輪飾り鏡餅	26	新年	人事	鏡餅
597	玄翁でわるや鍛冶屋の鏡餅	27	新年	人事	鏡餅
598	女の子二人かさねや鏡餅	27	新年	人事	鏡餅
599	海老赤く穂俵黒し鏡餅	28	新年	人事	鏡餅
600	海老野老草庵のあるじ愚老といふ	27	新年	人事	野老飾る
601	繭玉や東風に吹かるゝ店の先	28	新年	人事	繭玉
602	繭玉や仰向にねて一人見る	35	新年	人事	繭玉
603	父母妻子串柿のごと並びけり	27	新年	人事	串柿
604	萬歳が笑へば山もわらひけり	25	新年	人事	万歳
605	萬歳の顔のやつれや田植笠	25	新年	人事	万歳
606	萬歳も煙草すふなり町はづれ	25	新年	人事	万歳
607	朝な朝な萬才東へ霞み行く	26	新年	人事	万歳
608	萬歳と相のりしたる渡し哉	26	新年	人事	万歳
609	萬歳の家にめでたし古鼓	26	新年	人事	万歳
610	萬歳の歸るあとより霞みけり	26	新年	人事	万歳

611	萬才のはなし給ふや國なまり	26	新年	人事	万歳
612	萬才の目出たくしたるいほり哉	26	新年	人事	万歳
613	萬歳や黒き手を出し足を出し	26	新年	人事	万歳
614	無雑作に萬歳樂の鼓哉	26	新年	人事	万歳
615	萬歳に見つけられけり草の庵	27	新年	人事	万歳
616	萬歳の鼓を倒す枕かな	27	新年	人事	万歳
617	萬歳や四條をもどる夕日影	27	新年	人事	万歳
618	松あれば則ち入るや萬歳樂	28	新年	人事	万歳
619	萬歳の踊りかけたり町はつれ	28	新年	人事	万歳
620	澤龜の萬歳見せう御國ぶり	29	新年	人事	万歳
621	戸あくるや萬歳來る東より	30	新年	人事	万歳
622	萬歳の鼓聞ゆる朝日かな	30	新年	人事	万歳
623	才藏は葛西あたりの訛かな	31	新年	人事	万歳
624	萬歳は今も烏帽子そ都鳥	31	新年	人事	万歳
625	萬歳や三河町出て淡路町	34	新年	人事	万歳
626	猿曳も猿も見とれて傀儡師	25	新年	人事	猿曳
627	猿曳の紙子裂かるゝ猿の爪に	27	新年	人事	猿曳
628	猿引や猿のきよろつく日本橋	27	新年	人事	猿曳
629	猿曳の巴峽を下る小舟かな	28	新年	人事	猿曳
630	猿曳や猿に着せたる晴小袖	28	新年	人事	猿曳
631	猿引の過ぎ行く村の眞晝哉	29	新年	人事	猿曳
632	御停止を猿引と猿と鳴きにけり	30	新年	人事	猿曳
633	猿引も猿も鳴きけり十五日	30	新年	人事	猿曳
634	猿曳の綱のばしたる一間哉	31	新年	人事	猿曳
635	猿曳や若君抱きしお乳の人	31	新年	人事	猿曳
636	猿引を親猿と思ふ夜もあらむ	31	新年	人事	猿曳
637	猿曳や狛抱いて立つ思ひ者	34	新年	人事	猿曳
638	病牀に猿曳を見る日和かな	34	新年	人事	猿曳
639	烏帽子来て幣ふる猿や花の春	25	新年	人事	猿廻
640	うつくしき妹をもてり猿まはし	26	新年	人事	猿廻
641	梅のさく背戸へ入けり猿廻し	26	新年	人事	猿廻
642	鹽尻をうしろになして猿まはし	26	新年	人事	猿廻
643	正月は浮世に出たり猿まはし	26	新年	人事	猿廻
644	鞭あげて入日招くや猿まはし	26	新年	人事	猿廻
645	洗濯や追ひ返したる猿廻し	31	新年	人事	猿廻
646	梅の咲く背戸へはいるや傀儡師	26	新年	人事	傀儡師
647	傀儡師宿はと聞けば丹波哉	26	新年	人事	傀儡師
648	其箱のうちのぞかせよ傀儡師	26	新年	人事	傀儡師
649	辨慶に吠つく犬や傀儡師	26	新年	人事	傀儡師
650	睦月から泣いて見せけり傀儡師	26	新年	人事	傀儡師
651	傀儡師梅の花道歩み來る	27	新年	人事	傀儡師
652	一休の賣りに出でけり掛想文	26	新年	人事	懸想文売
653	鶯の音もなし梅の懸想文	26	新年	人事	懸想文売
654	懸想文詩か萬葉か催馬樂か	26	新年	人事	懸想文売
655	鶯がのぞく鳥追の笠の中	26	新年	人事	鳥追
656	鳥追や夜更けて歸る屋しき町	26	新年	人事	鳥追
657	鳥追のあとから笑ふ雀かな	27	新年	人事	鳥追

658	鳥追や夕日に下る九段阪	27	新年	人事	鳥追
659	屠蘇くむや下戸大盃をとりあげて	26	新年	人事	屠蘇
660	屠蘇に酔ふて龜も躍るや岩の上	26	新年	人事	屠蘇
661	屠蘇に酔ふ龜岩ふんで躍りけり	26	新年	人事	屠蘇
662	屠蘇袋花色絹の匂ひ哉	26	新年	人事	屠蘇
663	汲むや屠蘇猩々舞の亂れ足	27	新年	人事	屠蘇
664	屠蘇かけて見ばや枯木の梅の枝	27	新年	人事	屠蘇
665	屠蘇の酔風頻りに吹く頬のあたり	28	新年	人事	屠蘇
666	古妻の屠蘇の銚子をさゝげける	28	新年	人事	屠蘇
667	養老の屠蘇にもならぬめでたさよ	28	新年	人事	屠蘇
668	掛物の松は屠蘇の海に映ずべく	30	新年	人事	屠蘇
669	元日の雨を記すや屠蘇の酔	30	新年	人事	屠蘇
670	拜領の盃屠蘇を飲み初めぬ	30	新年	人事	屠蘇
671	屠蘇強ふや鴨汁盡きて蠣の汁	31	新年	人事	屠蘇
672	病牀に蜜柑剥くなり屠蘇の酔	31	新年	人事	屠蘇
673	福祿が行事に立つや屠蘇の酔	32	新年	人事	屠蘇
674	若餅や草津の里の姥が軒	27	新年	人事	若餅
675	若餅や齋の七日過ぎて後	32	新年	人事	若餅
676	風吹て下戸の負けたる雑煮哉	26	新年	人事	雑煮
677	傾城も猫もそろふて雑煮哉	26	新年	人事	雑煮
678	すき腹のはるとしいへば雑煮餅	26	新年	人事	雑煮
679	うたはゞや雑煮の腹をうちながら	27	新年	人事	雑煮
680	謳はゞや雑煮の腹を敲きつゝ	27	新年	人事	雑煮
681	三椀の雑煮喰ひぬ小傾城	27	新年	人事	雑煮
682	七椀の雑煮くひけり梅の花	27	新年	人事	雑煮
683	膳の上に繪の嶋のせて雑煮哉	27	新年	人事	雑煮
684	旅人の雑煮喰ふたる鞠子哉	27	新年	人事	雑煮
685	草の戸や雑煮の夜明酒の暮	28	新年	人事	雑煮
686	雑煮餅くひなやみたる女かな	28	新年	人事	雑煮
687	お雑煮をすゝめ参らす局哉	30	新年	人事	雑煮
688	塗椀の家に久しき雑煮哉	30	新年	人事	雑煮
689	兀椀の家に久しき雑煮哉	30	新年	人事	雑煮
690	病む人の雑煮喰ひけり直り口	30	新年	人事	雑煮
691	此山の黍の雑煮や日本一	31	新年	人事	雑煮
692	徳川の昔男や雑煮くひ	31	新年	人事	雑煮
693	めでたさも一茶位や雑煮餅	31	新年	人事	雑煮
694	雑煮くふて第一號をいはひけり	32	新年	人事	雑煮
695	参内の時間に近き雑煮哉	32	新年	人事	雑煮
696	下戸狸雑煮の腹を叩いて曰く	33	新年	人事	雑煮
697	下戸狸雑煮の腹を叩きけり	33	新年	人事	雑煮
698	長病の今年も参る雑煮哉	33	新年	人事	雑煮
699	百八人堂に聚まる雑煮かな	33	新年	人事	雑煮
700	解しかぬる碧巖集や雑煮腹	35	新年	人事	雑煮
701	雑煮腹本ヲ讀ンデモ猶ヘラズ	35	新年	人事	雑煮
702	太箆を持ちあましたる子供哉	22	新年	人事	太箆
703	一つ子の太箆握る太鼓哉	26	新年	人事	太箆
704	太箆の太しき程ぞめでたけれ	26	新年	人事	太箆

705	太箸や草の庵も旅心	26	新年	人事	太箸
706	覺束な太箸握る花嫁御	27	新年	人事	太箸
707	瘦腕の太箸にだも恥づるかな	27	新年	人事	太箸
708	大福の窓に見えけり東山	26	新年	人事	大福
709	大福や枯木に似たる梅の花	26	新年	人事	大福
710	大福や松の柱に竹の杓	26	新年	人事	大福
711	風吹て大服たまふ日なる哉	26	新年	人事	大福
712	大服や家に傳はる霰釜	32	新年	人事	大福
713	田つくりや庵の肴も海のもの	27	新年	人事	ごまめ
714	世の中に馴れぬごまめの形かな	28	新年	人事	ごまめ
715	田つくりを掛けて置きけり鼠罨	33	新年	人事	ごまめ
716	かち栗もごまめも君を祝ひけり	34	新年	人事	ごまめ
717	君と共に發句話さん事始	26	新年	人事	初句会
718	裏棚に浪人住んでうたひ初	26	新年	人事	謡初
719	此奥に又家のありうたひぞめ	26	新年	人事	謡初
720	盆栽に松あり梅あり謡初	26	新年	人事	謡初
721	磯の家や誰が公達の謡ひ初	27	新年	人事	謡初
722	諷初須磨と明石を窓の前	27	新年	人事	謡初
723	草の戸や雑煮の腹の謡初	27	新年	人事	謡初
724	謡初老いにけらしな人の聲	28	新年	人事	謡初
725	あつらえの扇出来たり謡初	35	新年	人事	謡初
726	扇取るわらべ可愛し謡初	35	新年	人事	謡初
727	謡初謡ひをさめて餘興かな	35	新年	人事	謡初
728	謡初近くきこゆる鼓かな	35	新年	人事	謡初
729	謡初七日をえらぶ嘉例かな	35	新年	人事	謡初
730	謡初羽衣すでに半なり	35	新年	人事	謡初
731	謡初寶生太夫参りけり	35	新年	人事	謡初
732	梅いけて謡はじめの儀式かな	35	新年	人事	謡初
733	草の家の隣に遠く謡初	35	新年	人事	謡初
734	膳立の茶の間かしまし謡初	35	新年	人事	謡初
735	舞そめや金泥ひかる京扇	27	新年	人事	舞初
736	寵愛の狛抱く後家やはつ芝居	26	新年	人事	初芝居
737	歌舞伎座の前通りけり初芝居	32	新年	人事	初芝居
738	さそはれし妻を遣りけり二の替	32	新年	人事	初芝居
739	初芝居團十郎の烏帽子かな	32	新年	人事	初芝居
740	初芝居見て来て曠著いまだ脱がず	33	新年	人事	初芝居
741	初曾我や團十菊五左團小團	33	新年	人事	初芝居
742	サソハレテ妻ヲヤリケリ二ノ替	34	新年	人事	初芝居
743	春木座へさそはれ行やはつ芝居	34	新年	人事	初芝居
744	子を負て子守鞠つく片手業	26	新年	人事	手毬
745	目の黒い人に生れて手鞠哉	27	新年	人事	手毬
746	目の黒ひ人と生れて手鞠かな	29	新年	人事	手毬
747	手鞠つき羽子遣る程になりけり	32	新年	人事	手毬
748	歌かるた戀ならなくに胴氣哉	32	新年	人事	歌留多
749	歌かるた女ばかりの夜は更けぬ	32	新年	人事	歌留多
750	蓬萊の一問明るし歌かるた	32	新年	人事	歌留多
751	歌かるた知らぬ女と並びけり	33	新年	人事	歌留多

752	遣羽子の下にかすむやふしの山	24	新年	人事	遣羽根
753	遣羽子に驚にげる流し哉	25	新年	人事	遣羽根
754	遣羽子をつきつきよける車哉	25	新年	人事	遣羽根
755	人ごみの中に羽子つくをとめ哉	26	新年	人事	遣羽根
756	遣羽子や小尼見返る町はつれ	26	新年	人事	遣羽根
757	遣羽子や根岸の奥の明地面	26	新年	人事	遣羽根
758	遣羽子に京の男のやさしさよ	27	新年	人事	遣羽根
759	遣羽子のちらちら雪となりにけり	27	新年	人事	遣羽根
760	遣羽子や京の六條數珠屋町	27	新年	人事	遣羽根
761	遣羽子や官女老いたる緋の袴	27	新年	人事	遣羽根
762	遣羽子や下宿の窓の品定め	27	新年	人事	遣羽根
763	遣羽子や十七八のうしろつき	27	新年	人事	遣羽根
764	遣羽子や十六七のうしろつき	27	新年	人事	遣羽根
765	遣羽子や皆君が代の女ぶり	27	新年	人事	遣羽根
766	遣羽子に去年の娘見えぬかな	28	新年	人事	遣羽根
767	遣羽子の笑ひ聞ゆる小道かな	28	新年	人事	遣羽根
768	遣羽子の吹かれて風に斜なり	29	新年	人事	遣羽根
769	いもうとの羽子板すこし劣りたる	31	新年	人事	遣羽根
770	羽子板や十五かしらに皆女	31	新年	人事	遣羽根
771	遣羽子の終に負けたる娘かな	31	新年	人事	遣羽根
772	遣羽子や誰が塗られて笑ひ聲	31	新年	人事	遣羽根
773	遣羽子や我墨つける君が顔	31	新年	人事	遣羽根
774	たらし髪羽子遣るあこに菓子やらん	32	新年	人事	遣羽根
775	遣羽子に負けてくやしき夕餉哉	32	新年	人事	遣羽根
776	遣羽子の風に上手を盡しけり	32	新年	人事	遣羽根
777	遣羽子の尻叩きけり泣きにけり	32	新年	人事	遣羽根
778	遣羽子や五人の中の思ひ人	32	新年	人事	遣羽根
779	遣羽子や邪魔して過る白袴隊	32	新年	人事	遣羽根
780	遣羽子や鼻の白粉頬の墨	32	新年	人事	遣羽根
781	遣羽子や往來の繁き抜小路	32	新年	人事	遣羽根
782	遣羽子や夕飯くふて歌かるた	32	新年	人事	遣羽根
783	遣羽子に負けし美人の怒哉	33	新年	人事	遣羽根
784	雙六のどこへころげて樂まん	26	新年	人事	双六
785	雙六や盧生の夢のふりあがり	26	新年	人事	双六
786	寶引やあとにものうき包み紙	26	新年	人事	福引
787	寶引や花蠟燭のぼっぼ	27	新年	人事	福引
788	福引の坐敷を照すラムブ哉	30	新年	人事	福引
789	福引の何やら知れぬ包み哉	30	新年	人事	福引
790	福引のわれ大なる物を得たり	30	新年	人事	福引
791	福引のわれ貧に十能を得たり	30	新年	人事	福引
792	福引に耻をかきたる女哉	31	新年	人事	福引
793	福引の笑ひどよめく隣哉	31	新年	人事	福引
794	福引のあとで素人の落後哉	32	新年	人事	福引
795	福引に公孫勝の手づま哉	33	新年	人事	福引
796	福引の曉鐘と題す包哉	33	新年	人事	福引
797	姑のくはぬ餅ありよめが君	24	新年	動物	嫁が君
798	猫もかはず一人ぐらしよ嫁が君	24	新年	動物	嫁が君

799	鐵漿壺をはね返しけり嫁が君	25	新年	動物	嫁が君
800	蓬萊の山を崩すや嫁が君	25	新年	動物	嫁が君
801	行燈の油なめけり嫁が君	26	新年	動物	嫁が君
802	かた餅やそろそろかぢる嫁が君	26	新年	動物	嫁が君
803	肴には數の子よけん嫁が君	26	新年	動物	嫁が君
804	餅殿を戀に夜毎の嫁か君	26	新年	動物	嫁が君
805	さゝやくは誰そ小殿原嫁か君	27	新年	動物	嫁が君
806	嫁か君の通ひ路多し破障子	27	新年	動物	嫁が君
807	灯を消して待たずしもあらず嫁が君	28	新年	動物	嫁が君
808	灯を消して待つ夜更たり嫁が君	28	新年	動物	嫁が君
809	鐵漿壺をふみなかへしそ嫁か君	30	新年	動物	嫁が君
810	金屏に群れつゝ嫁が君走る	30	新年	動物	嫁が君
811	枕邊に明けかゝる夜や嫁か君	30	新年	動物	嫁が君
812	嫁が君の通ひ路狭し升落し	30	新年	動物	嫁が君
813	一羽來て屋根にもなくや初烏	25	新年	動物	初鴉
814	朝日影羽紫に初烏	26	新年	動物	初鴉
815	風吹て悲しさうなり初烏	26	新年	動物	初鴉
816	初鴉上野の闇をはなれけり	26	新年	動物	初鴉
817	初烏お城の森にさわぐなり	26	新年	動物	初鴉
818	ほのほのや朝日よび出す初烏	26	新年	動物	初鴉
819	初鴉きぬきぬの恨みなかりけり	27	新年	動物	初鴉
820	初烏熊野の御寺靜かなり	27	新年	動物	初鴉
821	初鴉不二か筑波かそれがあらぬ	27	新年	動物	初鴉
822	古妻のいきたなしとや初鴉	27	新年	動物	初鴉
823	山里や枯木の枝の初烏	28	新年	動物	初鴉
824	よき衣の枕邊に在り初鴉	31	新年	動物	初鴉
825	銀座出る新聞賣や初鴉	32	新年	動物	初鴉
826	初とりや先年禮のいひはじめ	23	新年	動物	初鶏
827	初鶏もしるや義農の米の恩	25	新年	動物	初鶏
828	初鶏やねぐらの闇をいでゝ行	26	新年	動物	初鶏
829	初鶏の枕の上にうたひける	27	新年	動物	初鶏
830	初鶏や百萬石の聲つくり	27	新年	動物	初鶏
831	初鶏に眼をあく花の荅哉	29	新年	動物	初鶏
832	初鶏の二聲ばかり鳴きにけり	29	新年	動物	初鶏
833	初鶏の鳴くかと待てば犬吠ゆる	30	新年	動物	初鶏
834	ゆづり葉や齒朶や都は山くさし	26	新年	植物	楫
835	賤が家に置くも笑ふや福壽草	23	新年	植物	福壽草
836	どこ向けて見てもやさしや福壽草	23	新年	植物	福壽草
837	何もかもめでたけれども福壽草	24	新年	植物	福壽草
838	日あたりや小窓に開く福壽艸	24	新年	植物	福壽草
839	ふゝと笑ふ夫婦二人や福壽草	24	新年	植物	福壽草
840	柴の戸や黄金花さく福壽艸	25	新年	植物	福壽草
841	正月のはでな花なり福壽草	26	新年	植物	福壽草
842	水仙の冬にならんで福壽草	26	新年	植物	福壽草
843	南山をかざすや窓の福壽草	27	新年	植物	福壽草
844	俗な名を色を形を福壽草	28	新年	植物	福壽草
845	福壽草影三寸の日向哉	28	新年	植物	福壽草

846	福壽草貧乏艸もあらまほし	28	新年	植物	福寿草
847	盆栽や梅つぼみ福壽草黄なり	29	新年	植物	福寿草
848	蒼太く開かぬを愛す福壽草	30	新年	植物	福寿草
849	取合ヒや梅に鄙しき福壽草	31	新年	植物	福寿草
850	里昂製のテーブル掛や福壽草	31	新年	植物	福寿草
851	ガラス越しに日のあたりけり福壽草	33	新年	植物	福寿草
852	句を好む書生の室や福壽草	33	新年	植物	福寿草
853	煎餅賣る根岸の家や福壽草	33	新年	植物	福寿草
854	名をかへてことぶき草や歌に詠む	33	新年	植物	福寿草
855	猫の居る椽の日南や福壽草	33	新年	植物	福寿草
856	病室の煖爐の側や福壽草	33	新年	植物	福寿草
857	福壽草の蕾をいぢる机かな	33	新年	植物	福寿草
858	窓掛の房さがりけり福壽草	33	新年	植物	福寿草
859	水入の水をやりけり福壽草	33	新年	植物	福寿草
860	善き鉢の殊にいやしや福壽草	33	新年	植物	福寿草
861	ストーヴにほとりして置く福壽草	34	新年	植物	福寿草
862	盆栽の梅早く福壽草遅し	35	新年	植物	福寿草
863	裏白のある夜伊勢海老に語って曰く	26	新年	植物	裏白
864	裏白のひんとはねたる姿哉	26	新年	植物	裏白
865	橙や裏白がくれなつかしき	26	新年	植物	裏白
866	名こそかはれ江戸の裏白京の齒朶	28	新年	植物	裏白
867	風吹て齒朶山鳥の尾に似たり	26	新年	植物	齒朶
868	齒朶の羽蓬萊鶴の如く也	27	新年	植物	齒朶